
死亡宣告

雪花

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

死亡宣告

【Nコード】

N9608B

【作者名】

雪花

【あらすじ】

まだやりたい事だつてある。それなのに・・・突然の妊娠。死亡宣告を受けたそんな気がした・・・

死亡宣告

なんでこんな事になったのだろうか・・・？

「冗談やめてよ・・・」

誰も居ないトイレで呟く。

誰かに対して言った言葉ではない。

かと言って自分に言った言葉でもない。

訳も分らずに呟いた。

まだまだやりたい事だつてある。

仕事だつてやっと任せてもらえるようになったのに・・・
とにかくどうしていいのか分からなかった。

「ふう・・・」

深いため息をつき

目をきつくつぶって見る。

これが見間違いならいい。

淡い期待を抱いて瞼をゆっくりと開く。

白く細長い棒が手に握られている。

『判定』

そう書かれた隣に目を落とす。

判定窓には、はっきりと赤紫のラインが出ていた。

足に力が入らなくなりその場にしゃがみ込んだ。

そしてラインを見て手が震えた。

もしかしたら判定が間違ってるのかもしれないと思い説明書に目を通した。

『正確さ99.9%』

『赤紫のライン出たら陽性』

死亡宣告を受けた気分になった。

手に握られている妊娠検査薬には、はっきりと赤紫のラインが出ていた。

「陽性が・・・」

自分のお腹に手を当ててみた。

普段と何ら変わらない。

でもはっきりとしているのは、この中に子供が居るという事。

暫くその場から動けなかった。

頭の中が真っ白で何をすればいいのか分からなかった。

気が付いたらドックラクストアに居た。

手にはさっきと違う種類の妊娠検査薬が握られていた。

「バカみたい・・・何度やっても同じなのに。」

可笑しくもないのに笑ってた。

検査薬を棚に戻して店を出た。

これからどうするのか。

どうしたらいいのか分からない。

「電話しなきゃ。」

携帯から名前を探す。

ダイヤルボタンを押そうとした時に迷いが出た。

彼に打ち明けて大丈夫だろうか・・・？

もし自分の子供なんかじゃないと言われたら・・・

そんな事ありえない。

彼を信じてる。

そう頭では思っても心は不安でいっぱいだった。

彼の事を信じられない自分に腹が立った。

少し前までは、彼が全てで彼の事を信頼して。

なのに・・・

携帯を持つ手が震えている。

人ごみの中に居るのにこの世でただ一人取り残されたような気がしてならなかった。

携帯の画面から目を逸らせなかった。

画面には淋しく彼の名前が光ってた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9608b/>

死亡宣告

2010年10月22日00時42分発行